$oldsymbol{a}$, which is a state of the contradiction of the contradi

第60回 中高校生の吃音のつどい(サマーキャンプ)

8月10日(土)~11日(日)、小学生9人、中学生7人、高校生2人、兄弟姉妹3人、ご両親13人、スタッフ27人の計61名が参加。捜真学院御殿場自然教室にて開催。 今回、リーダーとして初めて参加したサマーキャンプでしたが、スタッフの苦労、リーダーの裏での頑張りを強く実感するつどいになりました。参加者として何回かキャンプに参加していたこともあり多少ながら軽い気持ちで事前準備に加わっていたのですが、時間が進み本番が近付く内、また当日リーダーとして行動する内にそれが甘いものだったということを実感しました。事前の入念な話し合いと打ち合わせ、当日の集合の際のゴタゴタ、タイムスケジュールの遅れ、多くのことを体験するうちに、参加者が楽しんでる裏でリーダーやスタッフ達は、参加者達が楽しみ、自分の吃音の悩みを安心して相談できるように影で努力していたことを知り、自分はまだまだ駄目だなと強く実感しました。反省することの多いキャンプでしたが同時に得られるものもありました。リーダーとしての経験は今後の役に立つと思いましたし、何よりも参加者の一人になつかれるという大きな収穫?がありました。次回11月のつどいでは不甲斐ないことのないように頑張りたいです。

(リーダー: 菅原慧、桜井達也、**三輪矩明**)

Y.T さん (小3 Y君のお母さん)

彼は今の所、吃っても「言いたい」「話したい」 「言いたくて仕方がない」気持ちが強いようで、たくさん言葉につまろうが、長い時間がかかろうが、おしゃべりを続けている日々です。でも、たくさんつまりながら話す姿が、母の私にはしんどそうに見えます。

ある時「吃音があるのはボクだけでしょ?他にいないよね?」と言われ、「吃音ドクター」の菊地先生 出演の番組を見せた事もあったのですが、彼がそう感じている事が気になっていたので、このキャン プに参加して他にも自分の様な吃音のある同世代 の子が沢山いる事を知って欲しい、と思い参加しました。

キャンプ参加前は気が乗らない彼でしたが、いざ参加してみると、初めは「作文なんてヤダよ」と言っていた彼も、同じ小3の友達と遊ぶ中で仲良くなり、すぐにニコニコ笑顔になり、2日目も寝不足にも関わらず、学校で普段見せないような笑顔で、ずっと嬉しそうでした。

お友達と手をつなぎ、ニコニコ歩いている彼の 姿を見た時「本当の仲間が欲しかったんだな..」と 感じると、涙が出そうになり「本当に参加して良かった!」と改めて実感しました。

帰宅後、彼に「キャンプどうだった?」と聞いてみると、「友達ができて楽しかった。うれしかった。いい子、やさしい子が多くスタッフさん達も全員いい人たちで、楽しかった」「花火がたくさんできて楽しかった」と、楽しかったばかりの嬉しい感想が聞けました。

私自身、吃音について話す貴重な時間を頂けて、ご一緒出来たご両親の方々及びスタッフの皆様に、大変感謝しています。本当にありがとうございました!

<u>Y.S さん(小3K君のお母さん)</u>

初めてのキャンプで行く前はいろいろ不安がありましたが(余計どもりを意識したらどうしょうか、など)、帰ってから、子供からどもりについて話してくれたり、子供が無理にどもらないように意識して口数が少なくなることもなくなり、毎日イキイキして生活してくれるようになりました。私自身も子供ときちんと向き合って話すようにもなりました。今は本当に行って良かったな、と心から思っています

秋にまた集まりがあるみたいなので、ぜひ参加させて下さい。子供も行きたい!と言ってくれました。キャンプに行って本当に良かったです。ありがとうございました。

田原 千雪 (大杉小学校ことばの教室教諭)

我が校のことばの教室は江戸川区の中央部に 位置する開室3年目の教室です。現在教員3人、 通級児童数40人。今年7月の保護者会で、佐藤 隆治さんをお呼びし、お話を聞く事ができました。

吃音をもっているお子さんと保護者への対応について、他教室のように保護者会や子供のグループ活動もやりたいと思いつつ、佐藤さんをお呼びできたことは、『はじめの一歩』でした。

「地方出身者が方言で話したいのに東京では色 んなことを気にして方言で話せないのとよく似てい て、吃りたい時に吃らせてくれる場所は、本当に居 心地の良い場所なんだよね」という話。

あるお母さんが火傷した子供の手にミトンの手袋を着けさせて、成長したその子が手袋を外そうとしたけれど、「周りの人にいつも見られてるんじゃないか」と怖くて怖くて外せなかったという実話は、『障害受容』ということについて深く考えさせられました。

腫れ物に触るように吃音に接すると、隠さないと いけないという価値観をもってしまいます。

また、吃音よりも話の内容に関心を示すことで、 安心して吃っても話せる環境が大切だと改めて思いました。

今まで時として「今日はあまり吃音が出なくて良かったですね」という対応をしてきた自分がとても恥ずかしくなりました。終わった後、二人の保護者が佐藤さんの前で身を乗り出してお話を聞かれていました。

Sさんは、さっそくつどいのキャンプに参加されました。「子供が自分から吃音のことを話すようになった事が一番の収獲です」とお母さんが活き活きと話された姿が印象的でした。

もう一人の親御さんもつどいに関心を寄せてい らっしゃいます。つどいとことばの教室が連携して、 一人で悩まず共有し合えたら素晴らしいと思いま す。これからも教室として佐藤さんにご相談できる と嬉しいです。

*パピプペポのワークは、ご両親 G で二人一組になっていただき、片方が子供役で、「ぱぴぷペぽ」しか言えない役をする。しかしその表情は、その時に合った好きな表情をしていい。もう片方は、親役をするが、親はどんな言葉でどんな表情をして返してもいい…というワーク。お母さんが、「ぱぴぷペぽ」の子供役経験することで、子供の気持ちがさっと入ってきたりする。息子さんに対して、もっと優しく話が聞ける…ようになれる気がする…と言ってくださいました。たかはる

<u>K. T 君(中 1)</u>

初めて参加しました。広島でも、このような会があるので、それと同じような感じでした。泊まりは2回目でした。

始まった時、知っている人は、母と電車で会った T君だけでした。そこでスケジュールを見たら、休 けいが一度もなかったので、ハードだなと思いまし た。

最初は握手ゲームから始まったので、僕はうれしかったです。なぜなら、僕は握手が得意だったからです。それも相手の手をゴリゴリできるということです。(*二人一組になり、心の中に思った数(1,2,3の内から)だけ握手。一致するまで行う)

それから、体ゆらしがありました。そこでは、「いいね~~」と言われたので、うれしかったです。

それから話し合いがあったので、そこでいろいろ 吃音で困っていることを話し合えたので勉強になり ました。

それから作文を書く時に、僕は何を書いて良いか分からなかったけど、2枚は書けて良かったと思っています。

寝る時は、いろいろあって1時くらいに寝ました。 僕は修学旅行の時に、先生を警戒しすぎて11時く

らにてま後ししっい寝しい悔てまた



ので、ここで夜ふかしできて良かったです。

次の朝、朝ごはんを食べ、すぐ話し合いがありました。そこで、昨日書いた作文を読むことになったので最初はすごく嫌だったです。でも、読んだ後に、はく手をしてくれたので良かったです。

僕は、ここの様に堂々とどもることが、少なくなっていると、この活動で思いました。だから、少なくとも家族には堂々とどもっていきたいと思っています。

N. Y 君(中 2)「きつおんのこと」

吃音は自分にとって、すごくじゃまで憎い存在です。 吃音が無ければ、やってみたいことをたくさん やれたと思います。 でも言葉が出なくなるから、そういう事から逃げてました。

実はこの前、初めて友達に吃音のことを話しました。いままでは、クセだとか言ってごまかしてました。別にごまかす必要はなかったんだけど、なかなか自分から言い出せませんでした。でも言えてちょっと良かったです。今でもたまに、からかわれるけどその時はうまく接っしてます。自分で言うのもなんだけど、自分はけっこう明るいタイプです。だから友達と親しんでます。まぁ吃音の事は、けっこう隠してたけど。小学校からのずっと長い友達さえ、隠してました。でもこの前、初めて打ち明けました。

吃音は無くなればそれでバンバンザイだけど、なかなか無くならないからこれからも吃音と付き合っていこうと思います。それに吃音のつどいという存在があるだけでうれしいです。



かねの か え 金野 加慧 (小学生&高校生Gスタッフ)

話し合いは、宿泊した部屋で行いました。2 人とも二段ベットの上下を行ったりきたりしながらですが、たくさん吃音の話をしてくれました。

K. O君は、「ゆっくり一生懸命話した方が言いたいことが伝わる」「**ぼくはどもっても大丈夫**」、と。

またY. T君が、K君のその言葉に対して『ぼくも そう思う』と言っていました。また、Y君は『**吃音でも いい**』と話していました。 まだ小学校 3 年生なのにこんな考え方ができる んだなと驚きました。私は自分がどもることが嫌な ので、もし小学生の時につどいの存在を知って参 加できていたら吃音に対する考え方が違ったので はないかと感じました。最後に、堂々としてるK君と Y君を羨ましく思いました。

土屋 初希(小学生Gスタッフ)

小学校高学年の話し合いの中で、「吃音者で良かったこと」を挙げた場面があったのですが、ほとんどの子が「吃音だったからつどいに来られた。みんなができない経験をしている」ということを述べていました。これを聞いて、小学生でこんな考え方ができるのは素敵だな一と感じていました。そして、川口君から遠慮がちに「土屋さんから見て、吃音者の良いところありますか・・・・・?」と聞かれました。(わぁお、不意打ち。そうだ、ここに来ているんだから、きちんと自分の考えを話そう)と思い、お伝えしました。

私が吃音の方の良いところだと思っている点は、皆さん自分のことを素直に出せているなと感じさせる点です。それは吃音であることをカミングアウトするかどうか、またはどんな人物かをアピールしているかどうかではなく、話しているだけで、その人がどんな人なのかが伝わってくるなと感じるということです。腹の内では嫌だと思っているのに、表面では自分をできる限り良く見せようという腹黒さが感じられないというのか、いい恰好をしようとしている感じがなく、私はうらやましいなと感じています。私は、ついええ恰好しいで、腹黒いので・・・・・笑。私の語彙力が貧困であまり良い伝え方ができなかったのですが、こんな感じです。

このように、スタッフや小学生から、吃音が無い 立場からの意見を求められることがあり、それを素 直に伝えられたことは私にとって大きな経験でし た。

<u>亀谷 豪(中学生Gスタッフ)</u>

「吃音を持つ私とこれからの生活」

久々につどいに参加して, 改めて自分が中学生 の頃のことを思い出し, 自分自身のルーツに触れ

たような気がしました。ものごころがついた時から吃音があって、小学生2年生ぐらいから意識的に人と話をすることを避けるようになりました。中学受験をして、新しい環境(小学生からの知り合いが一人もいない)で、積極的に友人をつくることができず、自分から人を巻き込んでいったり、計画することを避け、ひたすらに一人でできることを探していました。結果的に充実した学生生活は送れなかったかもしれません。

今回のつどいで、現役の中学生の話を聞いて、 吃音のことを踏まえて、どう学生生活(新しい友人 を作ったり、苦手な発表をしたり、部活動に取り組 んだり...)を送っていこうか、という自分の生活に 対する戦略を考えているんだなと感心しました。 (当時の私は、吃音が無くなったら~したいとか、 吃音の無い自分ばかり妄想し、自分が決めるべき ことを将来に先送りばかりしていた)自分達の吃音 を含んだ生活のことをみんなの前で語れるというこ とはカッコイイし、大人だなと思いました。

今年から社会人となり、運良く、友人、会社、仕事にも恵まれたと思います。いつも不安定で、不安だった大学生だった私が無事社会人となることができたのも、言友会での活動を通じて、自分自身の吃音と向き合ってきたからだと思います。これからは今までの経験を忘れずに、しっかりと地に足のついた生活を築いていきたいと思います。

斉藤 圭祐(ご両親 G スタッフ)

「サッカークラブの思い出」

中学生の僕は、サッカー少年 だった。吃音で悩んでいたことは

確かだったけれど、それよりもサッカーに夢中で練習に明け暮れる日々を送っていたのだった。

そんな僕だったけれど、ふいに吃音の不安に陥ることがあった。僕はサッカークラブのキャプテンを務めていた。当時の僕は、吃音が何なのかよくわからず、周りに吃音のある人は一人もいないこともあり、吃音のことを誰にも言ってはいけない、バレてはいけないことと考えていた。普段は、言い換えをしてやり過ごすことができた。クラブでのキャプテ

ンとしての信頼もあったと思う。

僕の最大の吃音の不安は、試合の時だった。キャプテンとして試合で必ずしなければならないことがある。試合後の相手ベンチへのあいさつである。試合前日になると不安で仕方なかった。毎日サッカーの練習を積み重ねてきたのに、試合前に肝心な試合のことが考えられないことがよくあった。「ありがとうございました」が出てこないかもしれない不安は、試合が近づくたびに僕を苦しめた。試合中なのに「途中交代で僕が退場すれば、今日はあいさつしなくていいな」とまで考える日もあった。

試合後、僕はチームメイトを引き連れて相手べ ンチ前へ整列させる。相手ベンチ側も起立し迎え 入れてくれる。整列が完了し、あいさつ前の沈黙が 訪れる。あとは僕が「ありがとうございました!」と元 気に言えば試合後のあいさつという行為は無事に 終わる。この沈黙を切り開く瞬間こそ、僕にとって その日の最大の修羅場。試合ではなく試合の後に 修羅場があるなんて、馬鹿げているといつも思って いた。手に汗を握りしめ、渾身の想いを込めて、あ いさつに挑む僕。失敗してはいけない。あいさつ が出てこないなんて許されない。あいさつが出てこ なければ僕は異常者として見られるのだろう。そん 🎝 なことはあってはならない。僕はキャプテンなのだ から。頭の中でいくつもの言葉が交じり合う。それ でも、あいさつが出てなかったことは一度もなかっ た。少しひっかかったことは幾度かあった。試合後 のあいさつは、普段の会話する声よりも大きな声を 出すことと、お辞儀する体の勢いがあったので出 やすかったのかもしれないな。

僕は中学生の三年間、チームメイトに吃音がバレなかった。(と思う。)大好きなサッカーをする中で、吃音の不安は僕の感情をゆさぶりいつも邪魔をした。

もし僕が、中学生の時に吃音をオープンにできたなら、試合することにどれだけ集中できただろうかな?なぜ僕は吃音を隠していたのだろう。僕が自らそうしたのだけれど、僕はそうするしかなかったのかな?誰に話していいのかわからないし、話しても理解されないんじゃないか?キツオンってなんなの?ってリアクションなんだろうな。どーせ意味わからないんだろうなぁ。じゃあ僕だけの秘密にして

中高校生のつどい
 おこう。大人になれば治るからしれないし、それより
 も大好さなサッカーに集中したいんだよ!そんな
 気持らでいっぱいだった。
 お品、僕は吃者に両き合わずに 10 代を協ごしてきた。吃音の無い日分を領じて生きてきた。それ
 は沿流がらない」苦労を伴ったけれど、やめることが
 できなかった。中学生当時に、吃音のある友達。
 仲間、大人と出会えたなら、僕はもっとなるして希
 望をもって生きることができたのからしれない。必
 死に隠して生きる必要があるのかどうなのかをもっ
 と考えられたのからしれない。今、吃音で悩んでい
 る中学生がいるのなか、僕と同はようと苦労を負っ
 てほしくはない。吃香の人はたざらん、多のだから。
 ともることはいけないとでなくて、日常にある普通
 の出来事の一つて、人前で見せてはいけないとと
 ではない、人もしてあずかしいこと
 ではない、として、人前で見せてはいけないとと
 ではない、人もした。と毎中して取り組めるよう
 な、吃者にひとらわれてしまわないような、そんな
 10 代の日々を送って欲しいと思っている。

 後記
 くうう最高に楽しい夏の思い出、今ここに一つ、
 完成しました」といら願で、新宿駅に皆到者できました。お母様かのお迎えもうれしいものです。
 くうたいたいく、これからも行き合いを大切にしたい人に
 だけでもしてみると良い。シラブの友達など、分かって、なしい人、これからも行き合いを大切にしたい人に
 だけてもなしてみると良い。シラブの友達など、分かって、おおあらもの。吃苦の女子高校生が主人公の漫画(太田出版 660 円)ですが、作者の押見修造さんからつどい宛、メッセイジ
 入り権後が届きました。ご自身行
 我も同様、吃苦の方。つどい IIP
 とうぞご覧下さい。
http://tsutdol.trdr.biz/blog/archives/448 (たかはる)

